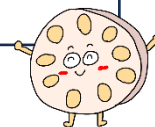




○経営方針 あいさつとありがとうで あったかい学校に

～ 子どもと向き合い、家庭に寄り添い、地域とともにある学校をめざして ～

【スローガン】「大好きな学校に・大好きな家庭に・大好きな地域に」



「方言」から伝わるふるさとの美

秋風に揺れるコスモスの花とススキの穂、ほのかに香るキンモクセイの香りに秋の深まりを感じる季節になりました。2学期も折り返しを迎え、子どもたちは6年生を中心に7日の式典に向けた準備に日々取り組んでいます。

さて、今岩国で大きな話題を呼んでいるNHKの連続テレビ小説「ブラッサム」。放映開始から1ヶ月あまりが経ちましたが、番組の演出や役者の演技、YOASOBIが手掛ける主題歌を含め評判も上々なようです。私もご多分に漏れず、ドラマの魅力にはまっている一人ですが、その中で特に心を動かされているのが、登場人物が話す岩国弁です。言い回しがそっくりで、一つ一つの言葉の響きに何とも言えない懐かしさと温もりを感じています。郷土の歴史と文化に育まれ、受け継がれてきた方言は、その地に住む人々の心の在り様を表しています。ひいき目かもしれませんが、岩国を象徴する錦帯橋の情景とそこに息づく人々たちの言葉（方言）が、岩国人の温かい人柄を全国に広めてくれているようで、嬉しく、また誇らしいと一人で悦に入っています。

「美しい言葉は、美しい心を育む」「美しい心は、美しい言葉から生まれる」

私たちが普段使っている言葉は、その人の心を映し出す鏡です。その言葉の素地は生まれ育った環境によって築かれ、出会う人たちによって育まれていきます。SNSを介した批判や誹謗中傷が絶えず、プラスの言葉よりもマイナスな言葉が先んじて使われてしまう昨今、本校でもマイナス言葉を簡単に口にしてしまう子どもが少なくありません。その一方で、プラス言葉（ぽかぽか言葉）は、普段使い慣れていないせいなのか、意識をしないとなかなか出てこない（使えない）という現状があります。

言葉（方言）を通じてふるさとの風情や人々の営みが伝わるように、美しい言葉を使い、美しい心を育むことで、幸せな気持ちとふるさとへの愛情を紡いでいく。本校でも、ぽかぽかことばや150周年の式典を通して、愛宕地域への想いを深めていきたいと思っています。晩年、ふるさと岩国に帰郷された宇野千代さんの言葉です。

「幸福は遠くにあるものでも人が運んでくるものでもない。自分の心の中にある。」

10月の『陽だまり』



子どもたちの学び直しを支援する「あっGO！ルーム」を始めました。月2回、昼休み時間に、会議室に常備している算数の小プリントに自主的に取り組んでいます。できた喜びを味わい、もっとやりたいという達成感や満足感を味わえる空間にしていきたいと考えています。